

15日最後の日は、自由活動。川俣ダム建設に伴う集落移転と、その後の生活の変化などのききこみなど、分散して、行った。

酪農、高冷地農業、その他の蔬菜栽培などを、見聞し、そこに住む人のさまざまな生活に触れ、密度の濃い巡検だったと思う。(斎藤先生指導 2年 木村多美子)

白馬巡検(10月5日～8日)

秋休みにはいったばかりの10月5日、白馬村の自然と集落の立地というテーマで、私たちの巡検が始まった。

5日。1:30白馬駅集合。まず役場へ。ここで、白馬の概況について話を聞く。それによると、白馬連峰のダンディな山並を控え、そこから流れ出す河川の扇状地上に形成されたこの村は、農業には見るべきものはない。代って、冬の雪、夏の冷涼な気候を利用した観光産業(スキー場・学生村)によって、成り立っているとのこと。役場を出て、瑞穂という集落に向う。途中で雨に降られる。雨の白馬は、10月初旬とは思えぬほどの寒さである。瑞穂は、平川の扇状地の、もともと水田には向かないところに、昭和22年より開拓された新しい集落で、農家という農家は、皆民宿でもある。雨とあまりの寒さに、早めに切り上げて宿舍へ。夕食後、旅館のおじさんのお話を聞く。

6日。雪をかぶった白馬連峰が鮮明に見える、すがすがしい朝。まず平川の砂防ダムへ。ここで、付近の地形、礫の種類等を観察。紅葉前線が1100m程度まできている。扇状地上の集落分布の説明を受けながら、深空を通り、神城の湿地帯へ。ここで、土壌を調査。この後、全員で、翌日のグループ巡検の下見に。蔵平、峰方、大出。それぞれ特色がある。地図上で選んだ自分の受け持ちの集落を実際に見て、それぞれ一喜一憂。落倉、新田へ向う前に、小谷村を通り、稗田山大崩壊の現場へ。身のすくむような浦川の谷の細道を、バスに揺られて30分。これだけの山が、一晚のうちに土石流に化したことを考えると、大自然の営みのスケールの大きさに、圧倒されるばかりである。帰り道、川内、落倉、新田を通り宿舍へ。

7日。いよいよグループ巡検だ。3人1組となって、不安と期待を胸に、それぞれが事前に決定した集落へ向う。自然条件、建て物の配置・規模・用途、農地との位置関係、集落立地の理由、他集落との関係、農業と観光等、その集落が白馬でどのような位置を占めているか、集落の立地と機能を調査。聞き込みが中心となるこの巡検、それぞれが貴重な体験を得た。この忙しいのに何しに来た、とどられた者、大歓迎を受け、いろいろごちそうになって帰って来た者、冷害で稲が実らないので、どうして生計を立てていいか解らないと、老婆にこぼされた者、さまざまである。

8日。最終日。この日は主に地形が対象。まず松川上流の南股へ。段丘面等の観察。この時、紅葉前線は900mにまで下っていた。次に北股へ。途中でバスを降り、大雪溪に見える白馬尻まで歩く。そこで、氷河の擦痕を観察。その後、白馬駅にもどり、12:00解散。

今回の巡検は、今までのものと比べ、一段と意義深いものであった。自分たちで、見、聞き、考える。見知らぬ人と語る中に、その土地の生活実感を肌で感じる事ができた。小さな体験ではあるが、

巡検の醍醐味の一端を味わったような気がする。

こうして、私たちは、3泊4日の白馬巡検を終えた。(式先生 井内先生指導 3年 山口優子)

外国地理

イギリス・フィリップ社製掛地図のお薦め

好評発売中

当社が総代理店として取扱うことになったフィリップ社掛地図は、これまでのドイツ・ヘルマンハークの掛地図に比して自然事象・人文事象はもちろん色彩の面でも群を抜いており、これからの地理教育に多大なる効果を上げるものと確信致しております。この機会に是非フィリップ社の掛地図を！

- 世界(ウインケル図法) 122×180(cm) 1:240万 ¥16,000
- ヨーロッパ 157×175(cm) 1:300万 ¥16,000
- アジア 178×180(cm) 1:600万 ¥16,000
- アフリカ 173×119(cm) 1:750万 ¥16,000
- 北アメリカ 150×119(cm) 1:650万 ¥16,000
- 南アメリカ 178×119(cm) 1:600万 ¥16,000
- オーストラリア 122×178(cm) 1:300万 ¥16,000

内容見本・説明書をお送り申し上げます。

● 地理書・外国地図の専門輸入 ……

内外交易株式会社

東京都渋谷区広尾一丁目7番3号107

✳ TEL 東京400-2326(代表)